

# 地域活性化という「遊び」

11

京都市  
福知山市 「みわ・ダツシュ村」から

山本晋也

年越しから新年へ  
穏やかな時がめぐる山里の暮らし

「おーいそっち水でたかーっ?」

「出た出たー」

朝もやの中に

子供達の元気な声が響きわたり

限界集落の小さな神社で年末の掃除

と飾り付けが始まりました。

手水場は

山から水を引いているのですが



手水場への水路を掃除中

最近動物が水路を崩したり

秋から冬にかけては落ち葉などで

すぐに詰まってしまう。

移住より8年目を迎える子供達は

どこが詰まりやすいかを心得ていて

水路を通すのは慣れたもので

大人が言わなくても

それぞれ持ち場へ直行



「おーい水でたかー」 「おー出た出た」

あつという間に通してしまいます。

しめ縄やお供えのお餅はもちろん

じいちゃんばあちゃんの手作り。

お飾りに使う

竹や松、南天、ウラジロは

ちよつと探せばそこらにあります。

参道に落ちている杉や檜の葉は

熊手で集めて

休憩のとき暖がとれるように集めて

たき火をします。

風の音、鳥の声、熊手や竹箒の音

パチパチと音を立てて燃える針葉樹

澄み切った朝の空気と煙の匂い

それぞれが絶妙の割合で混ざり合っ

て僕の心を震わせてくれるので

毎年思わず「ほーほー」っと

ため息をついてしまいます。

名付けて「ザ・限界集落ブレンド」。

これはクリスマスツリーや

クリスマスソング

カウントダウンライブや

## 筆者プロフィール

1968年、京都生まれ。美術大学を卒業して渡米後、京都で現代美術作家として活動。そのかたわらオーガニックレストランを経営するも食材を種から作ってみたいとなり、京都市内で畑を始める。結婚して3人の子供を授かったころ、農業生産法人みわ・ダツシュ村の清水三雄と出会い、福知山市の限界集落に移住。廃屋を修繕しながら家族で自給自足を目指す。土と向き合ううち田畑と山や川、個人とコミュニティーの関係やその重要性に気がつき、田舎も都会もすべて含めた「大きな意味での自給」を強く意識するようになる。この考え方は、美術家時代にドイツの現代美術家ヨゼフボイスのすべての人が参加して創り上げる社会彫刻という概念に影響を受けた。現在みわ・ダツシュ村副村長。



たき火はとってもいい匂い

ゆく年くる年、紅白歌合戦より  
ぐーっと胸の奥に迫り来るほどに  
年末を感じさせてくれます。

街に暮らしていた頃は

年末年始となると

楽しそうな場所やイベント

大きな音や

きらびやかなイルミネーション

「そこには何か特別なもの」を

探し求めて動きまわっていました。

それはそれでものすごく楽しく

今でも思い出してもニヤニヤするほ

ど楽しい思い出です。



南天をゲット



本殿にお参り

ただ、今は「そこになかったはずの特別なもの」が実はそこにあったということに気がついたのです。日常に飽きて非日常の世界に行き時が経って非日常が日常のようになってしまつと、ただの日常だったはずのものが今度は何か特別なものに見えてきます。旅行に行つて帰つてくるとマンネリで退屈だと思つていた普段の生活にも何らかの価値を見出せるのと同じです。移住当初、掃除やお参りは義務的に

ただただ頑張つてやつてきましたが今は本当に楽しんでできるようになりました。幸いなことに僕たちの家は集落の一番奥にあるので元旦の初詣は毎年じいちゃんばあちゃんのお家に挨拶に寄つたりしながら神社に向かいます。本殿以外にも山の神さんや大川さんなどかわいい小宮さんが5箇所ほど山の上や川のそばに点々と散らばっているのので山あり谷ありの楽しい散歩コース。大人はお賽銭とゴミ袋を握りしめ子供達はそこらに転がっている棒きれでちゃんばらしながら道端に冬イチゴがなつていたら寄り道し山道にキノコがあつたら寄り道し空き缶が捨ててあつたら拾つて集め狭い集落内を3時間ほどかけて一回り。穏やかな天気と重なれば時間が過ぎてゆくのが本当にゆつくりと感じられ夢の世界にいるような気さえしてきます。■



お不動さんのところまで来ると

今年はずっと違いましたみんなご機嫌で夢うつつ最後のお不動さんのところにたどり着いたとき目にしたあまりに酷い光景に雲の上から真つ逆さま限界集落の厳しい現実を叩きつけられました。お不動さんの前に美しい滝のある小さな川があるのでなんとそこに壊れた洗濯機2台とトラックの廃タイヤが何本もドッカーンと投げ捨てられているのでありませんか・・・。いわゆる不法投棄というやつです。こんなもの年末の掃除の際にはなかったし大晦日の夕方にもそれぞれにお餅を供えて回つたのでそれから元旦の朝にかけての数時間の間に起こった出来事。ないないづくしの楽しい暮らしも悪い方へ転べば



感謝すべき不法投棄が

こんなことが起こるのです。ただじいちゃんばあちゃんが年をとるといふことは子供達はしっかり成長し遅しくなっていくということでもありまた新年の元旦という特別な日に起こつたこういう出来事によって「この村は自分達が守らねば」という強烈な気持ちを持ち成長著しい子供達の中に芽生えさせるきっかけもなつたのでそのような巡り合わせをセツティングしていただいた神様と神様に命ぜられて不本意ながらも不法投棄をした馬鹿者には感謝し罪を憎んで人を憎まずと解釈しても行き場のない怒りのエネルギーがそのままでもつたいたないのでそれを目的達成のエネルギーに変え今年一年行動していきたいと思えます。